



# 未来ファンド おうみ

おたがいさまがつながる社会をめざす  
にゅーす

# News



Mirai Fund Ohmi News Letter Vol.7

2013.7 夏号



つながる活動

Photo



## 山門水源の森を 次の世代に引き継ぐ会

滋賀県北部県境にある「山門水源の森」は、北からの冷たい季節風と南からの暖かい風がちょうどぶつかる珍しい森で、希少種が多く生息しています。山門水源の森を次の世代に引き継ぐ会(以下、会)は、その森の再生と湿原保全の活動を行っています。

1996年、滋賀県は森を県有化しましたが希少種の盗掘等への対策が全くなかったため、自分たちでやるしかない、と、2001年に会を設立し、以後会員と各種ボランティアのみなさんの協力を得て、毎日森の観察、湿原の復元、希少種の保全、訪問者のガイド等の活動を続けています。

今年4月、これまで11年間の地道な活動による「ボランティアの手で継続的かつ自立的に、環境保全、再生が可能であることを証明してみせた先駆的な事例」として、未来ファンドおうみ「淡海のつなぐ、ひらく、みらい賞」を受賞されました。

## Data

- 連絡先：大津市穴太3-15-18 藤本秀弘  
TEL / FAX：077-578-4998  
E-mail：hide-n-c@mui.biglobe.ne.jp  
HP：http://www.digitalsolution.co.jp/nature/yamakado/

未来ファンドおうみへの寄付・助成事業についてのご相談は淡海ネットワークセンターへ



Ohmi Network Center  
淡海ネットワークセンター  
公益財団法人 淡海文化振興財団

### 公益財団法人 淡海文化振興財団

淡海ネットワークセンターは、県内の市民活動、NPO をサポート・ネットワークしています。

■〒520-0801 大津市におの浜 1-1-20 ピアザ淡海 2 階 ■TEL 077-524-8440 ■FAX 077-524-8442

■http://www.ohmi-net.com ■E-mail:office@ohmi-net.com ■開館時間/9:00~17:00 ■休館日/月曜日・祝日

### どろんこ塾 地域の子どもは、地域で育てる！

#### どろんこの会

どろんこの会は2008年に「地元の子ども達が様々な経験を通じて成長してもらうために、何か自分にできることはないか。」という代表の想いから活動が始まりました。



地域の小学生を対象に「どろんこ塾」と名付けた農業体験イベントを地域の公民館を運営する「NPO法人おうみ地域人権・文化・スポーツ振興会」と協力し、休耕田を利用した、田植えや稲刈り、野菜の苗植え、収穫など農業を主とする体験活動を提供しています。

今後も異年齢、地域間交流の中で、子どもの健全育成、米原の農業の活性化、そして会に携わっている方みんなが楽しむことが、活動を続けていく上で大切であると感じております。

#### ◆イベント情報

9月下旬ごろに稲刈りとさつまいもの収穫体験を予定

#### ◆連絡先：どろんこの会事務局

〒521-0072 米原市戸戸1513番地  
TEL：0749-52-3483 FAX：0749-52-3895  
E-mail:oumi-tjbs@zeus.eonet.ne.jp

### 社会貢献事業を仕事にしていく 未来社会をつくろう！！

#### NPO法人NPO子どもネットワーク天気村

子どもネットワークセンター天気村では、滋賀のNPOまたは野外体験活動のパイオニアとして、「親育ち」「子育ち」の活動を27年間にわたり実施し、多様な事業・サービスなど身近な課題を仕事としてきました。これまで取り組んできた事業を社会貢献活動(ソーシャルビジネス)として展開していくために、事業型NPOが仕事となっていく仕組みづくりやビジネスモデル創出のための研修講座が必要と考えています。私たちは天気村の強みである、自然・文化体験プログラムとICTデザインやニーズに合った事業企画など社会をよくするための持続可能な暮らしと仕事をつくり出すための研修講座として「みごとデザイン塾」を開設し、やりがい仕事になる社会をめざします。



子どもネットワークセンター天気村では、滋賀のNPOまたは野外体験活動のパイオニアとして、「親育ち」「子育ち」の活動を27年間にわたり実施し、多様な事業・サービスなど身近な課題を仕事としてきました。これまで取り組んできた事業を社会貢献活動(ソーシャルビジネス)として展開していくために、事業型NPOが仕事となっていく仕組みづくりやビジネスモデル創出のための研修講座が必要と考えています。私たちは天気村の強みである、自然・文化体験プログラムとICTデザインやニーズに合った事業企画など社会をよくするための持続可能な暮らしと仕事をつくり出すための研修講座として「みごとデザイン塾」を開設し、やりがい仕事になる社会をめざします。

#### ◆イベント情報：葛川細川町夏の暮らし合宿 Aコース8/1から8/3

Bコース8/22から8/24 対象：幼児(年長)から小学生

#### ◆連絡先：NPO法人NPO子どもネットワーク天気村

〒525-0033 草津市東草津1-1-15  
TEL：077-564-7868 FAX：077-564-7918  
E-mail: nt-tenki@biwako.jp URL: http://www.biwako.ne.jp/~nt-tenki/



### ファンドレイジングの小箱

A Small Box of FUNDRAISING

寄付を集めるためのひと工夫、寄付者の共感を呼ぶ事業、想いをつなぐ取り組みをご紹介します。

### お祝い返しの一部を寄付し 地域へ恩返し

#### 甲賀市信楽町長野地区



▲図書館に寄贈されたベンチと今回お話を伺った大平さん

信楽町は滋賀県南東に位置する盆地で、陶器信楽焼で有名な町です。

今回は「信楽町長野地区」で続いている「寄付」の風習に

ついてご紹介します。この風習は現在100歳の方が「昔からしている。」と言っておられるくらい古くからあります。

「還暦祝いの返し」としてお宮への寄付は全国的に今でもありますが、長野地区では一生に二度、お宮への寄付以外にも「地域への恩返し」として地域の公の施設・団体へ寄付します。

この地区では「初老(42歳)」と「還暦(61歳)」のお祝いを、同じ地域の同学年が集まり「会」をつくって行われており、県外へ出

た人・外から来た人も参加されています。

その「会」には寄付行事を担当する「寄付部会」があり、学校や公の施設をはじめ、地域で活動している団体等へ、困っている事・希望を聞き、必要な物を必要な団体へ寄付しています。

どこへ何を寄付するかは毎年担当者が考えていますが、寄贈申請を募るエントリー方式の年もありました。

例えば、地域の消防団には所有するホースを干すためのタワー、障害者就労支援施設にはエアコンや商品を焼くための窯など。図書館に寄贈された館外に置くベンチは、お昼時にご近所のママたちのランチ場所となり、憩いの場となっています。

今回、お話しを伺った地元の方は、なぜ長く続いてきたのかという問いに、「古くからの風習だから、声も掛けやすく寄付金もあ

たりまえのように集まる。」と話されました。

でも、「育ててもらった地域への感謝・恩返しをしたい。」という気持ちと、「地域の困った事を自分達で解決する。」という気持ちがあったからこそ、長く受け継がれてきたのではないのでしょうか。

お祝い返しの行事の一環として長く続いた寄付の伝統。この風習は信楽町全域で、今も行われています。



▲地域の障害者就労施設へ寄贈されたエアコン

(淡海ネットワークセンタースタッフ 牧野利花)

#### アクセス

電車：JR草津駅から約1時間

バス：石山駅から約1時間

車：新名神高速道路「信楽I.C.」から約10分